

2. 研究活動

① 研究業績

以下に、研究部と情報資料部の専任スタッフの研究業績を示した。aの集計表は、bの個人別業績の集計表である。なお、個人別研究業績は、基本的にセンターのスタッフであったときの業績である。

共同研究プロジェクトを実施し、その成果をまとめるという仕事がセンター研究員にとって重要な役割となっているため、aの集計表によれば、著作においては、圧倒的に編著が多くなっている。平均的には、毎年1人1冊の編集をしていることになる。学術論文については、平均的に、毎年2本以上執筆しているという結果となっている。合計で見た場合に年ごとの変動が少ないことは、驚きに値する。学会報告については、2004～2005年にかかなり増えていることが分かる。21世紀COEプログラムの成果の発表が増えていること、同プログラムにより学会報告の際の旅費の助成が得られることなどがこれに寄与していると考えられる。

a. 業績点数の内訳別、各年（1～12月）毎の集計表

	2002	2003	2004	2005	計
1 著作（学術研究書）	14	14	15	14	57
(1) 単著		1	2	2	5
(2) 共著				1	1
(3) 編著	14	12	13	11	50
(4) 資料集、統計集、全集の編集		1			1
2 学術論文（論文集や編著への寄稿を含む）	28	31	30	27	116
(1) 単著	27	31	29	21	108
(2) 共著	1		1	6	8
3 その他の業績	34	23	38	29	124
(1) 研究ノート等	8	2	9	7	26
(2) 書評	3	6	2	1	12
(3) 翻訳		1	2		3
(4) その他	23	14	25	21	83
4 学会報告（国際学会・全国学会のみ）	30	25	35	40	130
(1) 特別講演、記念講演	2	3			5
(2) 共通論題	16	14	29	22	81
(3) シンポジウム、パネル・ディスカッション	3	4	4	10	21
(4) シンポジウムのオーガナイザー	2			5	7
(5) 自由論題	7	4	2	3	16

b. 個人別内訳（専任教員のみ）

荒井 信雄

1 著作

(3) 編著

- ・ *The Russian Far East Today: Regional Transformations under Globalization* [21 世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 1] 84 (スラブ研究センター, 札幌, 2003)

2 学術論文

(1) 単著

- ・ 「貿易の変化」「中央と地方の関係」(情報研ハンドブック 3『ロシア極東：市場経済化の 10 年』33-44;64-83, 北海道新聞情報研究所, 2003)
- ・ 第 2 章「サハリン大陸棚開発と水産資源利用者の立場」(村上隆編著『サハリン大陸棚石油・ガス開発と環境保全』41-54, 北海道大学図書刊行会, 2003)
- ・ ロシア極東の漁業：「犯罪化」とグローバル化『えーじえつく・れぼーと』(北陸環日本海経済交流促進協議会) 32:28-35 (2003.7)
- ・ Проблемы развития российско-японской торговли морепродуктами, *Проблемы современной экономики* (СПб.), 3/4:133-134 (2003)
- ・ Российский экспорт морепродуктов в Японию: противоречия официальной статистики и реальной ситуации, *Регион: экономика и социология* (Новосибирск), 4:45-51 (2004)
- ・ ロシア連邦における水産資源の管理・配分システムの改革と輸出構造の変化『北日本漁業』[北日本漁業学会]32:22-25 (2004)

3 その他の業績

(4) その他

- ・ 日露間の領土紛争：新しいアプローチは可能か？『神青協』(神道青年全国協議会 114:3-14 (2004))
- ・ プーチン再選後の日露：領土勇断など期待薄れる『中国新聞』など (2004.3.24)
- ・ 北方四島経済に格差『読売新聞』(2004.6.6)

4 学会報告

(2) 共通論題

- ・ An International Approach to Regional Energy Community for Northeast Asian Countries, 環日本海学会, 札幌 (2003.9) におけるコメンテータ
- ・ セッション 6: 日露間水産資源貿易統計における不一致, スラブ研究センター 2004 年度夏期国際シンポジウム「21 世紀のシベリア・極東：『アジア共同体』のパートナー」, 札幌 (2004.7.14-16)
- ・ ロシアにおける勘定科目表, 環日本海学会, 東京 (2004.10) におけるコメンテータ
- ・ Японо-российская торговля морепродуктами в 1990 годах: ее плюсы и минусы, Международный симпозиум ИЭИ ДВО РАН, Хабаровск (2004.11.10-12)
- ・ セッション 1: 新ユーラシア：統合とアイデンティティ, 地域研究コンソーシアム・シンポジウム「新しい地域研究の方法を求めて：地域の形成と変容のメカニズム」, 札幌 (2005.7.9) におけるコメンテータ
- ・ 環オホーツク海圏における協力, 環日本海学会, 弘前 (2005.10) におけるコメンテータ

(3) シンポジウム・パネル・ディスカッション

- ・ Session 3: Roundtable, Russian Studies Dialogue: A Korea-Japan Perspective, Sapporo (5.16.2005) におけるパネリスト

家田 修

1 著作

(3) 編著

- ・ *Transformation and Diversification of Rural Societies in Eastern Europe and Russia*, ix+344 (SRC, Sapporo, 2002)
- ・ (Kántor, Majtényi, Vizi, Halász との共編) *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 4, The Hungarian Status Law: Nation Building and/or Minority Protection*, x+627 (SRC, Sapporo, 2004)
- ・ Where Are Slavic Eurasian Studies Headed in the 21st Century? [21 世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 7] 75 (スラブ研究センター, 札幌, 2005)

2 学術論文

(1) 単著

- The Re-transformation of Cooperative Farming and Rural Society in Hungary: Dual Leadership of Integration in Agricultural Production (IEDA Osamu, ed., *Transformation and Diversification of Rural Societies in Eastern Europe and Russia*, 193-245, SRC, Sapporo, 2002)
- ハンガリーにおける新国民形成と地位法の制定 『スラブ研究』 51:157-207 (2004)
- Post-communist Nation Building and the Status Law Syndrome in Hungary (21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 4, *The Hungarian Status Law: Nation Building and/or Minority Protection*, 3-57, SRC, Sapporo, 2004)
- 移行経済と社会形成 :2001 年ハンガリー地位法を事例として 『比較経済体制研究』 42(1):1-13 (2004)
- Ideological Background of the Amendment States Law Controversy in Hungary, *Central European Political Science Review*, 5(16):7-28 (Budapest, 2004)
- Regional Identities and Meso-Mega Area Dynamics in Slavic Eurasia: Focused on Eastern Europe (21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 7, *Emerging Meso-Areas in the Former Socialist Countries: Histories Revisited or Improvised?*, 19-41, SRC, Sapporo, 2005)
- The Hungarian Status Law and Slovak Acceptance (A. Duleba & T. Hayashi, eds., *Regional Integration in the East and West: Challenges and Responses*, 93-105, SFAS/SRC, Bratislava/Sapporo, 2005)

3 その他の業績

(2) 書評

- 百済勇 『EU 東方拡大とドイツ経済圏』 『比較経済体制学会年報』 40 (2):56-58 (2003)
- Akira Nozaki and Chris Bakerm, eds., *Village Communities, States, and Traders: Essays in Honour of Chatthip Nartsupha* (Bangkok, 2002) 『社会経済史学』 69(5):101-103 (2003)

(4) その他

- (事典項目) 「ハンガリー」「ヴェネチア委員会 19 号裁定」等の項目 (『世界民族問題事典』[改訂版] 平凡社, 2002)
- COE 在外研究報告：オックスフォード大学セント・アントニー校滞任記 (1)(2) 『スラブ研究センターニュース』 90:9-15 (2002.7); 91:12-17 (2002.10)
- 学会短信：ハンガリー社会史学会 『スラブ研究センターニュース』 91:17-20 (2002.10)

4 学会報告

(2) 共通論題

- 移行経済と社会形成, 比較経済体制学会 2003 年度大会「歴史的視野から見た現代移行経済」東京 (2003.6.6-7)
- セッション 1:(基調報告) スラブ・ユーラシアにおける地域アイデンティティと中域圏・広域圏力学: 東ヨーロッパを中心に, スラブ研究センター 2003 年度冬期シンポジウム「旧社会主義諸国に出現しつつある中域圏: 歴史は甦りつつあるのか、それとも創作されているのか」, 札幌 (2004.1.28-31)
- The Hungarian Status Law and Slovakian Acceptance, Bratislava International Conference on Regional Integration in the East and West: Challenges and Responses, Bratislava (2004.9.16-18)
- (総括討論) Konferencia értékelése, Budapest Conference on Folyamatok a Változásban, Teleki László Institute, Budapest (2004.10.1)
- セッション 4:Ideological Background of the Status Law Controversy in Hungary, ブダペスト国際シンポジウム「地位法症候群: ポスト共産主義の国民形成、あるいはポスト近代の市民権」, Budapest (2004.10.14-16)
- セッション 5: 東欧における地域意識: 再建それとも喪失, スラブ研究センター 2004 年度冬期シンポジウム「スラブ・ユーラシアと隣接世界の再編」, 札幌 (2004.12.8-10)
- Meso-Mega Area Dynamics in Slavic Eurasia: A Conceptual Approach to the Changing Post-communist Countries, American Association for the Advancement of Slavic Studies (AAASS) 年次大会, Salt Lake City (2005.11.5)
- セッション 7: 領域の国民化と国民の領域化, スラブ研究センター 2005 年度冬期国際シンポジウム「中・東欧の地域: 過去と現在」, 札幌 (2005.12.16) におけるコメンテータ

(3) シンポジウム・パネル・ディスカッション

- 第 6 セッション: 南東欧における体制転換, 中・東欧 = 日本 21 世紀フォーラム「中・東欧の民主政と市場経済: 新制度は定着するのか?」, 札幌 (2003.9.3-5) におけるコメンテータ

2. 研究活動

- ・ 千葉大学・21世紀COE「スラブ・ユーラシア学の構築」共催国際シンポジウム“The Significance of Historical Legacies of Socialism in Eastern Europe in the Age of Globalization”(2003.12.12-13)におけるコメンテータ
- ・ Session 3: Roundtable, Russian Studies Dialogue: A Korea-Japan Perspective, Sapporo (2005.5.16)におけるパネリスト
- ・ Emerging East European Meso-area in Post-communist Slavic Eurasia, International Council for Central and East European Studies (ICCEES) 世界大会, Berlin (2005.7.28)におけるコメンテータ

(5) 自由論題

- ・ Rural Transformation in Post-communist Hungary, Centre for Central and East European Studies, the University of Liverpool (2002.1)
- ・ Hungarian Studies in Japan: What Has Motivated the Japanese to Study Hungary?, Oxford Hungarian Society, the University of Oxford (2002.4)
- ・ Agriculture in Transition: The Hungarian Case, Centre for Russian and East European Studies, the University of Birmingham (2002.5)
- ・ Dual Leadership in Rural Transformation of Post-communist Hungary, St Antony's College, the University of Oxford (2002.6)
- ・ International Comparison on Leadership for Economic Development: With Special Attention to Its Religious Ethics, 10th Thai-Japanese Seminar, Chaing Mai (2002.12)
- ・ Meso-area Dynamics and Regional Identities: A New Approach to Slavic Eurasian Studies, AAASS 年次大会, Salt Lake City (2005.11.6)

井上 紘一

1 著作

(3) 編著

- ・ (ヴラチスラフ M. ラティシェフと共編)『樺太アイヌの民具 / Народное искусство сахалинских айнов/Sakhalin Ainu Folk Craft』vi+170 (北海道出版企画センター, 2002.1)
- ・ *B. Pilsudski in the Russian Far East: From the State Historical Archive of Vladivostok [Pilsudskiana de Sapporo, no.2]*, vi + 137 (SRC, Sapporo, 2002.2)

2 学術論文

(1) 単著

- ・ ブロニスワフ・ピウスツキ (樺太アイヌ協会編『樺太アイヌの伝統文化：ピウスツキ・コレクションより』107-113, 北海道出版企画センター, 2002)
- ・ ブロニスワフ・ピウスツキの不本意な旅路 (樺太アイヌ協会編『樺太アイヌの伝統文化：ピウスツキ・コレクションより』114-130, 北海道出版企画センター, 2002)
- ・ 第16章「石油・天然ガス開発の原住民に及ぼす影響」(村上隆編著『サハリン大陸棚石油・ガス開発と環境保全』258-310, 北海道大学図書刊行会, 2003)

4 学会報告

(2) 共通論題

- ・ ロシアのシベリア原住民統治政策：とくに1903～1905年のB.ピウスツキの試みに関連づけて, スラブ研究センター2002年度冬期シンポジウム「20世紀初頭のロシア・東アジア・日本：日露戦争の再検討」, 札幌(2003.1.29-2.1)

(3) シンポジウム・パネル・ディスカッション

- ・ A Century of Uilta (Orok) Reindeer Husbandry on the Island of Sakhalin, The International Symposium “The Raven’s Arch: Jesup North Pacific Expedition Revisited (1902-2002),” 札幌(2002.10.28)

(4) シンポジウムのオーガナイザー

- ・ 国際シンポジウム「渡鴉のアーチ：ジェサップ北太平洋調査を追試検証する(1902-2002)」[The International Symposium: “The Raven’s Arch: Jesup North Pacific Expedition Revisited (1902-2002)”], 天神山国際ゲストハウス, 札幌(2002.10.25-28)の実行委員会事務局長

岩下 明裕

1 著作

(1) 単著

- ・ 『中・ロ国境4000キロ』264 (角川書店, 2003)

2. 研究活動

- *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 2, A 4,000 Kilometer Journey Along the Sino-Russian Border*, xiv+210 (SRC, Sapporo, 2004)
- 『北方領土問題 :4でも0でも、2でもなく』 264 (中公新書, 2005)
- (2) 共著
 - 現地報告: 中国と中央アジア - 接触地域の現場検証, 39-72; 中・ロ国境問題の最終決着に関する覚え書, 73-81 (岩下明裕編 『ユーラシア国境政治: ロシア・中国・中央アジア』 [21世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 8] スラブ研究センター, 札幌, 2005)
- (3) 編著
 - (田畑伸一郎と共編) 『CISの安全保障問題』 [スラブ研究センター研究報告シリーズ 83] 38 (スラブ研究センター, 札幌, 2002)
 - (シン・グァンチェン著) *Русско-китайские отношения в Центральной Азии* [スラブ研究センター研究報告シリーズ 85] 26 (スラブ研究センター, 札幌, 2002)
 - (田畑伸一郎と共編) *Ten Years after the Collapse of the USSR* [スラブ研究センター研究報告シリーズ 86] 79 (スラブ研究センター, 札幌, 2002)
 - *The Sino-Russian "Strategic Partnership": Current Views from the Border and Beijing* [スラブ研究センター研究報告シリーズ 91] 75 (札幌, 2003)
 - (田畑伸一郎との共編) *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 2, Slavic Eurasia's Integration into the World Economy and Community*, vi+439 (SRC, Sapporo, 2004)
 - 『ロシア外交の現在 I』 [21世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 2] 118 (スラブ研究センター, 札幌, 2004)
 - *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 6-1, Siberia and the Russian Far East in the 21st Century: Partners in the "Community of Asia": Crossroads in Northeast Asia*, x+117 (SRC, Sapporo, 2005)
 - (Д. Кривцов と共編) *Взгляд вне рамок старых проблем: опыт российско-китайского пограничного сотрудничества* [21世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 6] 80 (スラブ研究センター, 札幌, 2005)
 - 『ユーラシア国境政治: ロシア・中国・中央アジア』 [21世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 8] 81 (スラブ研究センター, 札幌, 2005)

2 学術論文

(1) 単著

- *The Influence of Local Russian Initiatives on Relations with China: Border Demarcation and Regional Partnership*, *Acta Slavica Iaponica*, 19:1-18 (2002)
- 中露国境河川の挑戦: ウスリーとアムール (『ロシア極東地域情勢の研究』 96-117, 日本国際問題研究所, 2002)
- 上海プロセスの軌跡と展望: ソ連崩壊から機構設立まで 『ロシア研究』 34:96-113 (2002.4)
- プーチン時代のロシア外交: 対中国関係を手がかりに 『ユーラシア研究』 27:28-33 (2002.11)
- 9・11 事件以後の中露関係 『ロシア研究』 [特集: 9.11 事件以後のロシア外交の新展開 (松井弘明編)] 35 (2003.4)
- 中央アジアをめぐる中ロ関係 (『中央アジアをめぐる新たな国勢情勢の展開』 59-78, 日本国際問題研究所, 2003)
- 国境問題 (木村汎・石井明編 『中央アジアの行方』 84-106, 勉誠出版, 2003)
- 「CISと国際関係: ウクライナ・コーカサス・中央アジア」 「CISとロシア: 選択的重層アプローチの形成と展開」 (田畑伸一郎他編 『CIS: 旧ソ連空間の再構成』 176-184; 185-205, 国際書院, 2004)
- *The Shanghai Cooperation Organization and Its Implications for Eurasian Security: A New Dimension of "Partnership" after the Post-Cold War Period (21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 2, Slavic Eurasia's Integration into the World Economy and Community*, 259-281, SRC, Sapporo, 2004)
- ロシアの対中国外交: 「チャイナシンドローム」を越えて (横手慎二編 『東アジアのロシア』 67-88, 慶応義塾大学出版会, 2004)
- キルギスタン・タジキスタンの対外関係 (『イラク戦争後のプーチン政権の対中央アジア政策』 17-30, 日本国際問題研究所, 2004)
- 中俄在中亜的關係 (『第四次中亜形成與上海合作組織国際研究会論文集』 83-87, 上海国際問題研究所, 2004)
- *Вокруг проблемы российско-китайской границы, Мировая экономика и международные отношения*, 2:97-104 (2005)

2. 研究活動

- Вокруг проблемы российско-китайской границы, *Казахстан в глобальных процессах*, 1:98-109 (2005)
 - An Inquiry for New Thinking on the Border Dispute: Backgrounds of “Historic Success” for the Sino-Russian Negotiations (21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 6-1, *Siberia and the Russian Far East in the 21st Century: Partners in the “Community of Asia”: Crossroads in Northeast Asia*, 95-114, SRC, Sapporo, 2005)
 - The Shanghai Cooperation Organization and an Emerging Security System in Eurasia (A. Duleba & T. Hayashi, eds., *Regional Integration in the East and West: Challenges and Responses*, 41-49, SFAS/SRC, Bratislava/Sapporo, 2005)
 - 中・ロ国境問題はいかにして解決されたのか？『法政研究』（九州大学）71(4):597-614 (2005)
 - Опыт российско-китайских пограничных переговоров: применим ли он к территориальному вопросу между Россией и Японией? (*Взгляд вне рамок старых проблем: опыт российско-китайского пограничного сотрудничества* [21世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 6] 67-80 (スラブ研究センター, 札幌, 2005)
- 3 その他の業績
- (1) 研究ノート等
 - 『中・ロ国境の旅』[ユーラシア・ブックレット No. 51] 63 (東洋書店, 2003)
 - (4) その他
 - わが愛しのモスクーフスキー『スラブ研究センターニュース』90 (2002.7)
 - パミールの旅『スラブ研究センターニュース』96 (2004.1)
 - 北方領土上陸記『スラブ研究センターニュース』103 (2005.11)
- 4 学会報告
- (1) 特別講演
 - Sino-Russian Relations and the Border Issues, 中国社会科学院東欧中亜研究所, 北京 (2003.4.8)
 - (2) 共通論題
 - 中俄勘界工作的過程及展望：以黑龍江和烏蘇里江為中心的考察, 中俄区域經濟：合作與文化交流, 國際學術會, 哈爾濱 (2002.6.24-26)
 - Shanghai Cooperation Organization and Its Implication for Asian Security: A New Dimension of “Partnership” after the Post-Cold War, 19th General Conference, International Peace Research Association, Kyung Hee University, Seoul (2002.7.1-5)
 - 多様化する中露国境地帯：接触地点の現場検証, 第18回日ロ極東學術シンポジウム, 京都 (2002.11.22-24)
 - セッション3：CIS：10年間の変容, 2001年度スラブ研究センター冬期シンポジウム「ソ連崩壊後の10年」, 札幌 (2002.1.30-2.2) におけるコメンテータ
 - セッション4：上海協力機構とそのユーラシア安全保障への含意, スラブ研究センター2003年度夏期国際シンポジウム「スラブ・ユーラシアの世界経済・国際社会との統合」, 札幌 (2003.7.16-19)
 - Китайско-Российские отношения в Средней Азии, 第四次中亜形成與上海合作組織國際研討會, 上海國際問題研究所, 上海 (2003.10.20-22)
 - The Search for a New Exit from Japanese-Russian Territorial Deadlock, Conference on “Russia and Russian Far East: Transnational Security and Regional Cooperation,” Asia-Pacific Center for Security Studies, Honolulu (2003.12.2-4)
 - Putting Local Initiatives of the Russian Far East and Zabaikal into Focus: Border Issues vis-à-vis China, Seminar on “Ten Years of the Russian Transition: The State, Market, and Society in Transformation,” Seoul National University, Seoul (2004.4.19-20)
 - Реалии российского внешнеполитического подхода к миру: проблема российско-китайской границы, 3-й Конвент РАМИ «Внешнеполитический процесс в России: приоритеты и стратегии, участники и эффективность», Москва (2004.5.21-22)
 - The Shanghai Cooperation Organization and an Emerging Security System in Eurasia, Bratislava International Conference on Regional Integration in the East and West: Challenges and Responses, Bratislava (2004.9.16-18)
 - An Inquiry into China-Russia Border Negotiations, International Symposium 2004 (北方領土対策協会), 富山 (2004.10.30)
 - Проблемы и перспективы совместного проживания и взаимовлияния народов в Приморье, Институт истории, археологии и этнографии народов Дальнего Востока, Владивосток (2004.11.5) におけるコメンテータ (第1セッション)

2. 研究活動

(4) シンポジウムのオーガナイザー

- ・ 日本国際学会部会「アジア・ユーラシアの国境問題を考える」, 札幌 (2005.11.20) のオーガナイザー兼コメンテーター

(5) 自由論題

- ・ A New Era of Eurasian Cooperation: Beyond the Sino-Soviet Border Disputes, AAASS 年次大会, Salt Lake City (2005.11.6)

宇山 智彦

1 著作

(3) 編著

- ・ (林忠行・帯谷知可との共編) 『スラブ・ユーラシア世界における国家とエスニシティ』 [JCAS-SRC Series I, JCAS Occasional Paper, No. 14] 52 (国立民族学博物館地域研究企画交流センター, 2002)
- ・ 『中央アジアを知るための60章』 317 (明石書店, 2003)
- ・ (岩崎一郎, 小松久男との共編著) 『現代中央アジア論: 変貌する政治・経済の深層』 xxi+301 (日本評論社, 2004)
- ・ *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 5, Лакоба С. Абхазия после двух империй: XIX-XXI вв.*, 208 (SRC, Sapporo, 2004) (序文)
- ・ (小松久男・梅村坦・帯谷知可・堀川徹と共編) 『中央ユーラシアを知る事典』 626 (平凡社, 2005)

2 学術論文

(1) 単著

- ・ From “Bulgharism” through “Marrism” to Nationalist Myths: Discourses on the Tatar, the Chuvash and the Bashkir Ethnogenesis, *Acta Slavica Iaponica*, 19:163-190 (2002)
- ・ 中央アジア不安定化の予測はなぜはずれるか: 「テロ」問題の背後にある「国家」の問題 『情況』 3月号: 61-79 (2002.3)
- ・ Why Are Social Protest Movements Weak in Central Asia?: Relations between the State and People in the Era of Nation-Building and Globalization (Sakai Keiko, ed., *Social Protests and Nation-Building in the Middle East and Central Asia*, 47-56, Institute of Developing Economies, Chiba, 2003)
- ・ Japanese Policy in Relation to Kazakhstan: Is There a “Strategy”? (Robert Legvold, ed., *Thinking Strategically: The Major Powers, Kazakhstan, and the Central Asian Nexus*, 165-186, The MIT Press, Cambridge, MA, 2003)
- ・ A Strategic Alliance between Kazakh Intellectuals and Russian Administrators: Imagined Communities in *Dala Walayatining Gazetı* (1888-1902) (Hayashi Tadayuki, ed., *The Construction and Deconstruction of National Histories in Slavic Eurasia*, 237-259, SRC, Sapporo, 2003)
- ・ От «булгаризма» через «марризм» к националистическим мифам: дискурсы о татарском, чувашском и башкирском этногенезе (Мацузато Кимитака, ред., *Новая волна в изучении этнополитической истории Волго-Уральского региона: Сборник статей*, 16-51, SRC, Sapporo, 2003)
- ・ Research Trends in the Former Soviet Central Asian Countries (Stéphane A. Dudoignon and Komatsu Hisao, eds., *Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (18th-20th Centuries): A Selective and Critical Bibliography of Works Published between 1985 and 2000, Part 1*, 48-68, The Toyo Bunko, Tokyo, 2003)
- ・ “Devotion to the People” and Paternalistic Authoritarianism among Qazaq Intellectuals, from the Mid-Nineteenth Century to 1917 (Stéphane A. Dudoignon, ed., *Devout Societies vs. Impious States? Transmitting Islamic Learning in Russia, Central Asia and China, through the Twentieth Century*, 19-27, Klaus Schwarz Verlag, Berlin, 2004)
- ・ Политика Японии в отношении Казахстана: Есть ли “стратегия”? (Роберт Легволд, ред., *Стратегические перспективы: ведущие державы, Казахстан и центральноазиатский узел*, 197-224, American Academy of Arts and Sciences, Cambridge, MA, 2004)
- ・ 政治制度と政治体制: 大統領制と権威主義 (岩崎一郎他編著 『現代中央アジア論: 変貌する政治・経済の深層』 53-79, 日本評論社, 2004)
- ・ Взгляды царских генералов на кочевников и их воинственность: По поводу неосуществленного плана о формировании конной милиции в Туркестане (М.Х. Абусейтова, ред., *Урбанизация и номадизм в Центральной Азии: история и проблемы*, 194-209, Дайк-Пресс, Алматы, 2004)

2. 研究活動

- ・旧ソ連ムスリム地域における「民族史」の創造：その特殊性・近代性・普遍性（酒井啓子・白杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム（イスラーム地域研究叢書⑤）』55-78, 東京大学出版会, 2005)

3 その他の業績

(1) 研究ノート等

- ・中央アジア草原知識人・英雄群像（第6回 イブラヒム・アルトゥンサリン：近代教育の父；第7回 アバイ・クナンバエフ：詩人の絶望と希望；第8回 憂愁と信仰の詩人たち：「悲しみの時代」からシャカリムまで；第9回 アリハン・ボケイハン：自治運動指導者の栄光と悲劇；第10回 アフメド・バイトゥルスノフ：言語と社会の改革者；第11回 ミルヤクブ・ドゥラトフ：民族に身を捧げた知識人；第12回 マグジャン・ジュマバエフ：詩作と思想の実験）『しゃりばり』240:38-41；241:44-47；242:44-47；243:46-49；244:44-47；245:40-43；246:40-43（2002）
- ・中央アジア草原知識人・英雄群像（第13回 草原を統治したロシア人たち：コルバコフスキーとトロイニツキー）『しゃりばり』263:28-31（2003）
- ・中央アジア草原知識人・英雄群像（第14回 1916年反乱の英雄たち：アマンゲルディ・イマノフとその周辺；第15回 ムスタファ・チョカイ：流浪の自治・独立運動家；第16回 トゥラル・ルスクロフ：若き革命家の苦闘；第17回 アウエゾフとサトバエフ：困難な時代を生き抜いた作家と学者；第18回 エルムハン・ベクマハノフ：第二次世界大戦と歴史家；第19回 ディンムハメド・コナエフ：安定と「停滞」の時代の指導者；第20回 ナルスルタン・ナザルバエフ：初代大統領の光と影）『しゃりばり』264:28-31；265:26-29；266:40-43；267:36-39；268:36-39；269:38-41；271:32-35（2004）
- ・第2ラウンドを迎えたCIS諸国の政治変動：「革命」の誘因と阻害要因『国際問題』544:42-46（2005）

(4) その他

- ・（事典項目）「アイトマトフ」「アウエゾフ」「アバイ」「アラシュ・オルダ」「カザフ」「カザフスタン」「カザフ・ハーン国」「クルグズ」「クルグズスタン」「1916年反乱」「ドゥラトフ」「バシュコルト人」「ルスクロフ」「ワリハノフ」の項目（『岩波イスラーム辞典』3；5；34；73；255；337；574-575；674-675；757；1055；1084-1085, 岩波書店, 2002）
- ・（事典項目）「カザフスタン（増補）」「キルギスタン（増補）」の項目（『新訂増補 世界民族問題事典』1274-1275；1277-1278, 平凡社, 2002）
- ・（事典項目）Kazakstan (*The Encyclopaedia of Islam, Supplement Volume, Fascicle 7-8*, 518-520, Brill, Leiden, 2004)
- ・（事典項目）「アカエフ」「コナエフ」「セミパラチンスク核実験場」の項目（『新版 ロシアを知る事典』平凡社, 2004）
- ・（事典項目）「アフガニスタン」など20項目（世界史小辞典編集委員会編『山川 世界史小辞典（改訂新版）』山川出版社, 2004）
- ・（事典項目）「異族人」「コレニザーツィヤ」「地震」「第2次世界大戦」「帝政ロシア地方統治規程」など66項目（小松久男他編『中央ユーラシアを知る事典』平凡社, 2005）
- ・ウズベキスタン議会選挙監視体験記『スラブ研究センターニュース』101（2005.5）
- ・第二ラウンドに入った中央ユーラシアの変動：クルグズスタン（キルギス）・ウズベキスタン情勢によせて『月刊百科』513:2-5（2005）
- ・座談会：中央アジアの最新情勢（岩下明裕編『ユーラシア国境政治：ロシア・中国・中央アジア』[21世紀COEプログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集8]13-16, スラブ研究センター, 札幌, 2005）

4 学会報告

(1) 特別講演

- ・中央アジア近代史研究の新しい可能性：文書館史料から見えてくる世界，内陸アジア史学会大会，東北学院大学，仙台（2003.11.8）

(2) 共通論題

- ・セッション4：旧ソ連における宗教復興と集団的記憶，2001年度スラブ研究センター冬期シンポジウム「ソ連崩壊後の10年」，札幌（2002.1.30-2.2）におけるコメンテータ
- ・セッション4：カザフ知識人とロシア人行政官との戦略的同盟：ステップ地方新聞における想像の共同体（1888-1902年），2002年度スラブ研究センター夏期国際シンポジウム「スラブ・ユーラシアにおける国民史の構築と脱構築」，札幌（2002.7.10-13）
- ・セッション5：イスラームと国家，2002年度スラブ研究センター夏期国際シンポジウム「スラブ・ユーラシアにおける国民史の構築と脱構築」，札幌（2002.7.10-13）におけるコメンテータ

2. 研究活動

- ・セッション6: 脱帝国地域において変化する民族・歴史意識, スラブ研究センター 2003 年度冬期シンポジウム「旧社会主義諸国に出現しつつある中域圏: 歴史は甦りつつあるのか、それとも創作されているのか」, 札幌 (2004.1.28-31) におけるコメンテータ
- ・ロシア帝国におけるイスラーム地域統合政策の諸相, ロシア史研究会 2004 年度大会, 札幌 (2004.10.23-24) におけるコメンテータ
- ・セッション5: 個別主義の帝国: 中央アジアにおけるロシアのキリスト教化・兵役政策, スラブ研究センター 2005 年度夏期国際シンポジウム「中央ユーラシアの地域的・超域的ダイナミズム: 帝国、イスラーム、政治」, 札幌 (2005.7.7-9)
- ・Spatial Redefinitions of Slavic Eurasian Territories, AAASS 年次大会, Salt Lake City (2005.11.6) におけるコメンテータ
- ・クルグズスタン (キルギス) の革命: 革命のカーニバル性と不透明な政治構造の維持, 日本国際政治学会 2005 年度研究大会, 札幌 (2005.11.18)
- ・セッション7: 領域の国民化と国民の領域化, スラブ研究センター 2005 年度冬期国際シンポジウム「中・東欧の地域: 過去と現在」, 札幌 (2005.12.14-16) におけるコメンテータ
- (3) シンポジウム・パネル・ディスカッション
- ・特別パネルディスカッション「新時代におけるカザフスタンのアイデンティティと日本・カザフスタン関係」, ロシア・東欧学会 2005 年度大会, 福岡 (2005.10.16) におけるコメンテータ
- (4) シンポジウムのオーガナイザー
- ・地域研究コンソーシアム・シンポジウム「新しい地域研究の方法を求めて: 地域の形成と変容のメカニズム」, 札幌 (2005.7.9)
- ・中央アジア研究会シンポジウム「中央ユーラシア研究の新地平」, 東京 (2005.7.10-11)
- (5) 自由論題
- ・Взгляды царских генералов на кочевников и их “воинственность”: По поводу неосуществленного плана о формировании конной милиции в Туркестане, International Conference “Urban and Nomadic Societies in Central Asia: History and Challenges,” Institute of Oriental Studies, Almaty (2003.5.22-23)
- ・Why Did the Russian Empire Avoid Conscripting Central Asians? An Aspect of the Failed Policy of Russification, Central Eurasian Studies Society Annual Conference, Harvard University (2003.10.2-5)
- ・The Tsarist Policy of Christianization in the Central Asian Steppe: Bureaucratic Orthodoxy vs. Dynamic Islam, Central Eurasian Studies Society Annual Conference, Indiana University (2004.10.14-17)

大須賀みか

1 著作

(4) 名簿の編集

- ・『スラブ・ユーラシア研究者名簿 第7版』245 (スラブ研究センター, 札幌, 2003)

田畑伸一郎

1 著作

(3) 編著

- ・(岩下明裕との共編)『CISの安全保障問題』[スラブ研究センター研究報告シリーズ83]38 (スラブ研究センター, 札幌, 2002)
- ・(中村靖著)『計算可能一般均衡 (CGE) モデル作成マニュアル』[スラブ研究センター研究報告シリーズ84]53 (スラブ研究センター, 札幌, 2002)
- ・(岩下明裕との共編) *Ten Years after the Collapse of the USSR* [スラブ研究センター研究報告シリーズ86]79 (スラブ研究センター, 札幌, 2002)
- ・(金野雄五著)『ロシアのWTO加盟をめぐる諸問題』[スラブ研究センター研究報告シリーズ87]22 (スラブ研究センター, 札幌, 2002)
- ・『ロシア・CISの世界経済との統合: 統計・会計の諸問題』[スラブ研究センター研究報告シリーズ92]51 (札幌, 2003)
- ・(末澤恵美との共編)『CIS: 旧ソ連空間の再構成』251 (国際書院, 2004)
- ・(岩下明裕との共編) *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 2, Slavic Eurasia's Integration into the World Economy and Community*, vi+439 (SRC, Sapporo, 2004)

2. 研究活動

2 学術論文

(1) 単著

- Russian Revenues from Oil and Gas Exports: Flow and Taxation, *Eurasian Geography and Economics*, 43(8):610-627 (2002)
- CISにおける経済統合：域内貿易における付加価値税の課税原則をめぐって『ロシア研究』34:24-41 (2002)
- Regional Sources of Federal Expenditure and the Pattern of Revenue Sharing in Post-Soviet Russia, *The Donald W. Treadgold Papers*, 36:19-52 (2003)
- 経済統合 (田畑伸一郎・末澤恵美編『CIS: 旧ソ連空間の再構成』51-71, 国際書院, 2004)
- 財政・金融制度の改革と現状 (大津定美, 吉井昌彦編『ロシア・東欧経済論』85-106, ミネルヴァ書房, 2004)
- CIS 経済統合と石油・天然ガス『アジア研ワールドトレンド』10(5):11-13 (2004)

(2) 共著

- (久保庭真彰と) ロシアにおける1990年代の人口・年金危機：移行経済の世代間利害調整に関する予備的考察『経済研究』53(3):247-267 (2002)
- (塩原俊彦と) ロシア：石油ガスに依存する粗野な資本主義 (西村可明編『ロシア・東欧経済：市場経済移行の到達点』1-27, 日本国際問題研究所, 2004)
- (M. Kuboniwa, N. Ustinova と) How Large Is the Oil and Gas Sector of Russia? A Research Report, *Eurasian Geography and Economics*, 46(1):68-76 (2005)

3 その他の業績

(1) 研究ノート等

- *The Russian Pension in the 1990s* [PIE Discussion Paper Series, No. 72], 16 (Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, 2002)
- (大津定美と) *Pension Reforms in Russia* [PIE Discussion Paper Series, No. 262], 27 (Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, 2005)

(2) 書評

- Stefanie Harter and Gerald Easter, eds., *Shaping the Economic Space in Russia: Decision-Making Processes, Institutions and Adjustment to Change in the El'tsin Era*, *Europe-Asia Studies*, 54(1):148-150 (2002)
- 山口秋義『ロシア国家統計制度の成立』207 (梓出版社, 2003) 『比較経済体制学会年報』41(2):95-98 (2004)

(4) その他

- ロシアにおける2001年の財政動向と連邦・地域・地方の財政関係 (『ロシアの対外債務問題と財政・金融事情』49-72, 国際金融情報センター, 2002)
- Changes in Relations between the Federal and Regional Budgets of Russia in 2001 (『日露共同シンポジウム報告書「ロシアの地方と中央の関係について」』5-20, 内閣府, 2002)
- 「主要経済政策」『季刊ROTOBOエコノミックトレンド』17(3):8-11; 17(4):11-22; 18(2):46-51; 18(3):44-46 (2002); 18(4):148-157; 19(2):28-36; 19(3):36-41 (2003)
- The Russian State Budget in 2002 and the Impact of Tax Reform (『ロシアの経済改革に関する調査報告書』6-27, 日本総合研究所, 2003)
- ロシアの税制 (『ビジネスガイド ロシア』61-69, ロシア東欧貿易会, 2004)
- 「インフレーション」「オランダ病」「関税」「経済自由化」「建設業」「鉱工業」「通貨・金融危機」「ルール」「独立国家共同体 [経済]」の項目 (『新版 ロシアを知る事典』平凡社, 2004)
- 村上さんを偲んで『スラブ研究センターニュース』99 (2004.10)
- Russia's Economic Integration with CIS Countries (『ロシアの経済改革に関する調査報告書』51-61, 日本総合研究所, 2005)

4 学会報告

(2) 共通論題

- (大津定美と) Pension System in Russia, International Workshop on Population, Labor Market, Pension and Quality of Life in Transitional Countries, 国立 (2002.2.23)
- Changes in Relations between the Federal and Regional Budgets of Russia in 2001, Symposium on the Russian Economy: The Relationship between the Central and Local Areas in the Russian Federation, 東京 (2002.3.19)
- Flow of Oil and Gas Exports Revenues and Their Taxation in Russia, AAASS 年次大会, Pittsburgh (2002.11.24)
- The Russian State Budget in 2002 and the Impact of Tax Reform, Symposium on the Russian

2. 研究活動

- Economy: Financial Stabilization and Banking Reforms in Russia, 東京 (2003.3.28)
- Pension Reform in Russia: Research Note, AAASS 年次大会, Toronto (2003.11.21)
- (大津定美と) Pension Reforms in Russia, International Workshop on Economics of Intergenerational Equity in Transition Economies, 国立 (2005.3.10)
- Russia's Economic Integration with CIS Countries, Symposium on the Russian Economy: Energy Sector and Economic Partnership Issues in Russia, 東京 (2005.3.30)
- Oil and Gas Export Revenues and Their Influence on Economic Growth of Russia, ICCEES 第7回世界大会, Berlin (2005.7.30)
- The Influence of High Oil Prices on Russia's GDP Growth, AAASS 年次大会, Salt Lake City (2005.11.4)

兎内勇津流

2 学術論文

(1) 単著

- Holdings of Books Related to Russia and Eastern Europe among Japanese Academic Libraries: An Analysis Based on the NII Union Catalog, *Slavic & East European information resources*, 3(4):3-17 (2002)
- ロシア聖書協会と聖書ロシア語訳事業：歴史的 position 付けについての覚え書き『スラヴ研究』50:301-315 (2003.3)
- NII 総合目録データベースにおける著者名典拠ファイルの形成過程『大学図書館研究』73:1-14 (2005.3)

3 その他の業績

(2) 書評

- Кравецкий, А.Г., Плетнева, А.А. *История церковнославянского языка в России, конец XIX-XX в.* Москва, 2001 (Studia philologica) 『ロシア史研究』72:85 (2003)
- M.I. スルホフスキイ「17世紀以前のロシアの図書館」『大学図書館研究』69:64-67 (2003)

(4) その他

- 北海道大学スラブ研究センター図書室の所蔵資料とその利用 (特集：続・21世紀における地域研究図書館の役割)『アジア研ワールド・トレンド』90:35-36 (2003.3)
- 中国刊行ロシア語出版物目録稿『ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア研究会通信』2:9-27 (2004)
- 中国刊行ロシア語出版物目録稿 補遺 (1) 総合目録新出分『ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア研究会通信』9:10-14 (2005.5)
- 中国刊行ロシア語出版物目録稿 補遺 (2) 東洋文庫篇『ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア研究会通信』9:15-24 (2005.5)
- 中国刊行ロシア語出版物目録稿 補遺 (3) 早稲田大学図書館篇『ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア研究会通信』10:12-20 (2005.9)
- 「レンセン・コレクション収載マイクロ資料目録 (1)」「同 (2)」「同 (3)」『ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア研究会通信』4; 6; 7:11-24; 10-28;12-24 (2004)
- サハリン郷土誌ビュレティン総目次 (1) 1990-1994『北海道・東北史研究』1:72-87 (2004.12)
- サハリン郷土誌ビュレティン総目次 (2) 1995-1999『北海道・東北史研究』2:74-93 (2005.12)
- ロシア古地図めぐり『ネットピヌス』57 (2004)
- (事典項目改訂および文献目録作成協力) 「図書館」他の項目 (『新版 ロシアを知る事典』平凡社, 2004)

4 学会報告等

(2) 共通論題

- NII 総合目録データベースにおける著者名典拠ファイルの形成過程, 日本図書館情報学会第51回研究大会, つくば (2003.10.25-26)
- 地域研究情報資源確保のために: ロシア・東欧関係資料の分布状況から考える, 地域研究コンソーシアム情報資源共有化・地域情報学会合同研究会, 京都大学東南アジア研究所 (2005.12.5)

(3) シンポジウム・パネル・ディスカッション

- 読書の秋・講演会, 主催: 札幌古書籍商組合 共催: 北海道立文学館 (2004.9.23) パネリスト

(5) 自由論題

- スラブ研究センターにおけるハプスブルク史関連文献の収集, ハプスブルク史研究会, 札幌 (2002.7.22-23)

2. 研究活動

- ・ 17 世紀ロシアの出版文化, ウロジェニエとロシア社会研究会, 金沢 (2004.10.28)

林 忠行

1 著作

(3) 編著

- ・ (宇山智彦・帯谷知可との共編) 『スラブ・ユーラシア世界における国家とエスニシティ』 [JCAS-SRC Series I, JCAS Occasional Paper no. 14] 52 (国立民族学博物館地域研究企画交流センター, 2002)
- ・ *The Construction and Deconstruction of National Histories in Slavic Eurasia*, vi+365 (SRC, Sapporo, 2003)
- ・ 『東欧・中央ユーラシアの近代とネイションⅡ』 [スラブ研究センター研究報告シリーズ 89] 75 (札幌, 2003)
- ・ (帯谷知可との共編) 『スラブ・ユーラシア世界における国家とエスニシティⅡ』 [JCAS-SRC Series II, JCAS Occasional Paper, No. 20] 72 (国立民族学博物館地域研究企画交流センター, 2003)
- ・ *Democracy and Market Economics in Central and Eastern Europe: Are New Institutions Being Consolidated?*, vi+409 (SRC, Sapporo, 2004)
- ・ (帯谷知可との共編) 『東欧・中央ユーラシアの近代とネイション(Ⅲ)』 [スラブ研究センター研究報告シリーズ 95] 49 (札幌, 2004)
- ・ (A. Duleba との共編) *Regional Integration in the East and West: Challenges and Responses*, 250 (SFAS/SRC, Bratislava/Sapporo, 2005)

2 学術論文

(1) 単著

- ・ ポスト共産党時代のチェコにおける政党システムと選挙制度改革 『社会学研究』 (東北社会学研究会) 70:1-24 (2002.2)
- ・ チェコ共和国における地方自治改革と政党政治: 1993-2000 『スラヴ研究』 49:1-27 (2002.4)
- ・ スロヴァキアの国内政治と EU 加盟問題: 1993-2002 『日本比較政治学会年報』 5: 149-171 (2003.5)
- ・ スロヴァキアにおけるナショナリズムと政党政治: 第三次メチアル政権におけるスロヴァキア国民党 (帯谷知可・林忠行編 『スラブ・ユーラシア世界における国家とエスニシティⅡ』 [JCAS-SRC Series II, JCAS Occasional Paper, No. 20] 27-36, 国立民族学博物館地域研究企画交流センター, 2003)
- ・ Democratization and Authoritarianism in Post-Communist Slovakia (Vojmir Franicevic and Hiroshi Kimura, eds., *Globalization, Democratization and Development: European and Japanese Views of Change in South East Europe*, 165-176, Masmedia, Zagreb, 2003)
- ・ “Neo-liberals” and the Politics of Economic Transformation in the Post-Communist Czech Republic (T. Hayashi, ed., *Democracy and Market Economics in Central and Eastern Europe: Are New Institutions Being Consolidated?*, 129-147, SRC, Sapporo, 2004)
- ・ チェコの政党政治と欧州懐疑主義 『地域研究』 6(2):151-171 (2004.4)
- ・ EU Enlargement and Euroscepticism in Central and Eastern Europe: The ODS in the Czech Party System (A. Duleba & T. Hayashi, eds., *Regional Integration in the East and West: Challenges and Responses*, 75-84, SFAS/SRC, Bratislava/Sapporo, 2005)
- ・ 東中欧諸国と米国の単独主義: イラク戦争への対応を事例に 『ロシア・東欧学会年報』 33:47-58 (2005)

3 その他の業績

(4) その他

- ・ 日本の外で「固有の領土」論は説得力をもつのか: 欧州戦後史の中で考える 『しゃりばり』 283:36-39 (2005)

4 学会報告

(2) 共通論題

- ・ セッション1: ヨーロッパとユーラシアの間の新たな鉄のカーテン?: 分化する「新東欧」, 2001 年度スラブ研究センター冬期シンポジウム「ソ連崩壊後の 10 年」, 札幌 (2002.1.30-2.2) におけるコメンテータ
- ・ EU Enlargement and Euroscepticism in Central and Eastern Europe, Bratislava International Conference on Regional Integration in the East and West: Challenges and Responses, Bratislava (2004.9.16-18)

2. 研究活動

- ・ 東欧と米国のユニラテラリズム：東中欧諸国のイラク戦争の対応を中心に，ロシア・東欧学会 2004 年度大会，札幌 (2004.10.9-10)
- ・ セッション 2: バルト諸国：ひとつの中域圏か否か，スラブ研究センター 2003 年度冬期シンポジウム「旧社会主義諸国に出現しつつある中域圏：歴史は甦りつつあるのか、それとも創作されているのか」，札幌 (2004.1.28-31) におけるコメンテータ
- ・ セッション 3: マサリクの「中欧」もしくは「東欧」：第一次世界大戦期の言説から，スラブ研究センター 2005 年度冬期国際シンポジウム「中・東欧の地域：過去と現在」，札幌 (2005.12.14-16)
- (3) シンポジウム・パネル・ディスカッション
 - ・ 共産党体制崩壊後におけるスロヴァキアの「民主主義」と「権威主義」，日本比較政治学会大会 2002 年度研究大会，東京大学法学部 (2002.6.22-23)
 - ・ Democratisation and Authoritarianism in Post-Communist Slovakia, A New Dialogue Between Central Europe and Japan (The Fifth Conference): The South-East European Countries in Transition, Zagreb (2002.9.12-14)
 - ・ Session 3: Roundtable, Russian Studies Dialogue: A Korea-Japan Perspective, 札幌 (2005.5.16) におけるパネリスト
- (4) シンポジウムのオーガナイザー
 - ・ 日本国際政治学会 2005 年度研究大会，札幌 (2005.11.18-20) 実行委員長

原 暉之

1 著作

(3) 編著

- ・ *Советско-японская война и проблемы военнопленных в СССР* [スラブ研究センター研究報告シリーズ 81] 69 (スラブ研究センター，札幌，2002)
- ・ (N.N. ボルホヴィチノフ著) *Жизнь и деятельность Г.В. Бернадского (1887-1973) и его архив* [スラブ研究センター研究報告シリーズ 82] 63 (スラブ研究センター，札幌，2002)
- ・ 『ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア (I)』 [21 世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 3] 89 (スラブ研究センター，札幌，2004)
- ・ 『ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア (II)』 [21 世紀 COE プログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集 5] 107 (スラブ研究センター，札幌，2004)

2 学術論文

(1) 単著

- ・ Япония движется на север. Японская оккупация Северного Сахалина (20-е годы XX века), *Краеведческий бюллетень* [Южно-Сахалинск], 1:96-110 (2001 [実際は 2002 年に出版])
- ・ 韓国(朝鮮)学の先駆者たち：ロシアから見た朝鮮半島『国際交流』98 (2003.1)
- ・ 日露戦争後のロシア極東：地域政策と国際環境『ロシア史研究』72：6-22 (2003.5)
- ・ 俘虜は博愛の心を以て之を取扱ふべし：樺太の戦場から 100 年前の戦争を考える (松山大学編『マツヤマの記憶：日露戦争 100 年とロシア兵捕虜』138-157, 成文堂, 2004.3)
- ・ 巨視の歴史と微視の歴史：『アムール現地総合調査叢書』(1911～1913) を手がかりとして『ロシア史研究』76:50-66 (2005.5)

3 その他の業績

(1) 研究ノート等

- ・ ロシアの新聞雑誌記事にみる洋式船亀田丸の事績 (1861 年) (函館日口交流史研究会編『函館とロシアの交流』40-45, 2004.3)
- ・ 開拓使の浦潮見本市顛末『外交フォーラム』199:56-58 (2005.2)

(4) その他

- ・ 英雄都市レニングラード：900 日の攻防戦とその後『しゃりばり』261：54-57 (2003.11)
- ・ A.A. ヨッフエ：日ソ国交への地ならし (御厨貴編『時代の先覚者・後藤新平』267-269, 藤原書店, 2004.10)
- ・ 鈴木正久氏を偲んで『スラブ研究センターニュース』100 (2005.2)

4 学会報告

(1) 特別講演

- ・ 俘虜は博愛の心を以て之を取扱ふべし：樺太の戦場から 100 年前の戦争を考える，松山大学創立 80 周年市民フォーラム「捕虜の町・国際都市マツヤマ」，松山 (2003.12.13)

(2) 共通論題

- ・ セッション 6：歴史的パースペクティブにおける日露戦争，スラブ研究センター 2002 年

2. 研究活動

- 度冬期シンポジウム「20世紀初頭のロシア・東アジア・日本：日露戦争の再検討」, 札幌 (2003.1.29-2.1) におけるコメンテータ
- ・住民形成と商品流通の歴史から見たロシア極東, スラブ研究センター 2004年「北東アジア次世代ワークショップ」, 札幌 (2004.7.17-19)
 - ・巨視の歴史と微視の歴史: ロシア極東地域を題材として, ロシア史研究会 2004年度大会, 札幌 (2004.10.23-24)
 - ・アジア海域史とロシア極東, 2005年度ロシア史研究会大会 (2005.10.22) におけるコメンテータ
- (4) シンポジウムのオーガナイザー
- ・日本とロシアの研究者の目から見るサハリン・樺太の歴史, サハリン国立大学 (2005.11.1-2) のオーガナイザー
- (5) 自由論題
- ・日本におけるサハリン島民、1905年、日本とロシアの研究者の目から見るサハリン・樺太の歴史, サハリン国立大学 (2005.11.1-2)

藤森 信吉

2 学術論文

(1) 単著

- ・2004年ウクライナ大統領選挙: 政権交代がもたらすもの『ロシア東欧貿易調査月報』4月号:1-22 (2005)
- ・オレンジ革命への道: ウクライナ民主化15年『国際問題』7月号:47-54 (2005)
- ・Ukrainian Gas Traders, Domestic Clans and Russian Factors: A Test Case for Meso-Mega Area Dynamics (21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 7, *Emerging Meso-Areas in the Former Socialist Countries: Histories Revived or Improvised?*, 113-136, SRC, Sapporo, 2005)

3 その他の業績

(4) その他

- ・ドネツクで考えたこと『スラブ研究センターニュース』100 (2005.2)

4 学会報告

(3) シンポジウム・パネル・ディスカッション

- ・セッション1: パイプラインと中域圏: ウクライナ・ロシアの場合, 地域研究コンソーシアム・シンポジウム「新しい地域研究の方法を求めて: 地域の形成と変容のメカニズム」, 札幌 (2005.7.9)
- ・ウクライナの『オレンジ革命』は民主化革命なのか, 部会2: 旧ソ連諸国における「民主化革命」の三国比較, 日本国際政治学会, 札幌 (2005.11.18)

前田 弘毅

2 学術論文

(1) 単著

- ・シャー・アッパース一世の対カフカス政策: 「異人」登用の実像『史学雑誌』113(9):1-37 (2004.9)
- ・「イランとカフカス、日本を結ぶミッシングリンク: アルボルズとエルブルース」 「ゲルジア村の発見」(岡田恵美子、北原圭一、鈴木珠里編『イランを知るための65章』259-262; 263-267, 明石書店, 2004.9)
- ・コーカサス展望2003: ゲルジアを中心に (『中央アジアを知る』[ACF講座講演集 Vol.5] 27-46, アジアクラブ, 2004.3)
- ・ゲルジア「バラ革命」: 元祖民主革命が成就するまで『国際問題』544:55-62 (2005)

3 その他の業績

(1) 研究ノート等

- ・『歴史の精華』第三巻にみるサファヴィー朝の政治文化に関する予備的考察『アジア・アフリカ言語文化研究』68:193-213 (2004.9)
- ・(玄承洙と解説) チェチェン紛争の現在 (ヴィアチェスラフ・アヴェツキー著、萩谷良訳『チェチェン』[文庫クセジュ 890] 171-175, 白水社, 2005)
- ・ゲルジアの文書館事情『現代史研究』51:91-96 (2005)
- ・国境と民族: コーカサスの歴史から考える『しゃりばり』283:40-45 (2005)
- ・Rostom-Khan Saakadze da misi ojakhi (*Akhlo Aghmosavleti da Sakartvelo*, IV, 33-35 [in Georgian, with English summary p.324], Tbilisi, 2005)

(4) その他

- ・新生ゲルジア: 文明の交差点に光を『朝日新聞』(私の視点) (2004.1.26)

2. 研究活動

- ・ (巻頭随筆) 知られざる現代史 『外交フォーラム』 188:9 (2004.3)
 - ・ ムツヘタ 『世界遺産』 TBS 2004 年 3 月 7 日放映 (監修)
 - ・ ゲルジアの「現代史」: 『やさしい嘘』 公開に寄せて 『やさしい嘘』 プレス及び Web (<http://www.yasashii-uso.com/history.html>), 東芝エンタテインメント (2004.7) 改稿後、「ゲルジア現代史」として 『やさしい嘘』 パンフレットに転載 (2004.10. pp.12-13)
 - ・ 二つの場所 :2004 年秋ゲルジア訪問記 『スラブ研究センターニュース』 100 (2005.2)
 - ・ (事典項目) 「イスファハーン」「シャー」「シャー・アッバース」の項目 (黒田日出男編 『歴史学事典第 12 巻 王と国家』 弘文堂, 2005)
 - ・ (事典項目) 「アジャリア (自治共和国) [現状]」「ゲルジア (人)」「ゲルジア語」「サアカシュヴィリ」「シェヴァルドナゼ」「チャフチャヴァゼ」「ルスタヴェリ」の項目 (小松久男他編 『中央ユーラシアを知る事典』 平凡社, 2005)
 - ・ ゲルジアの歴史と現状について 『学習院大学人文科学研究所報 2004 年度版』, 45-46 (2005)
- 4 学会報告
- (2) 共通論題
- ・ Panel 2: The Russian Empire and Central Eurasia (P. Werth, V. Shnirelman, N. Naganawa, Chair K. Nishiyama), ロシア史研究会 2004 年度大会, 札幌 (2004.10.23-24) におけるコメントータ
 - ・ セッション 9: コーカサスにおけるサファヴィー朝イランの強制移住政策と地域秩序の再編, スラブ研究センター 2004 年度冬期シンポジウム 「スラブ・ユーラシアと隣接世界の再編」, 札幌 (2004.12.8-10)
 - ・ セッション 4: イスラーム復興: 国境を越えた動きか、国内問題か, スラブ研究センター 2005 年度夏期国際シンポジウム 「中央ユーラシアの地域的・超域的ダイナミズム: 帝国、イスラーム、政治」, 札幌 (2005.7.7-9) におけるコメントータ
 - ・ ゲルジアのバラ革命: 「革命」にみる連続性, 日本国際政治学会 2005 年度研究大会, 札幌 (2005.11.18)
- (3) シンポジウム・パネル・ディスカッション
- ・ 「異境」としてのカフカース :17 世紀サファヴィー朝イランとゲルジア, JSSEES (日本スラヴ東欧学会) 第 19 回国際シンポジウム, 東京工業大学 (2004.10.30)
 - ・ Session 3: Roundtable, Russian Studies Dialogue: A Korea-Japan Perspective, 札幌 (5.16.2005) におけるパネリスト

松里 公孝

1 著作

(3) 編著

- ・ *Регіони України: хроніка та керівники. Том 2. "Харківська область"* [「現代ウクライナ政治の総合的研究」報告輯 1], 134 (SRC, サッポロ, 2002)
- ・ *Пространственные факторы в формировании партийных систем: Диалог американистов и постсоветологов* [「脱共産主義諸国のリージョン・サブリージョン政治」研究報告輯 7], 108 (SRC, サッポロ, 2002)
- ・ *Весна народов: этнополитическая история Волго-Уральского региона. Сборник документов*, 206 (SRC, サッポロ, 2002)
- ・ *Регионы России. Хроника и руководители. Том 8. Республика Марий Эл, Чувашская Республика, Республика Башкортостан*, 342 (SRC, サッポロ, 2003)
- ・ *Новая волна в изучении этнополитической истории Волго-Уральского региона – сборник статей*, 335 (SRC, サッポロ, 2003)
- ・ *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 1, Феномен Владимира Путина и российские регионы: победа неожиданная или закономерная*, 368 (SRC, サッポロ, 2004)
- ・ *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 7, Emerging Meso-Areas in the Former Socialist Countries: Histories Revived or Improvised?*, 415 (SRC, サッポロ, 2005)
- ・ *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 8, Социальная трансформация и межэтнические отношения на Правобережной Украине 19 - начало 20 вв.*, 221 (Moscow, 2005)

2 学術論文

(1) 単著

- ・ The Last Bastion of Unitarism? Local Institutions and Party Politics in Lithuania 1990-2001, *Eurasian Geography*, 43(5):383-410 (2002)
- ・ Elite and the Party System of Zakarpattia Oblast: Relations among the Levels of Party

2. 研究活動

- Systems in Ukraine, *Europe-Asia Studies*, 54(8):1265-1299 (2002)
- Субрегиональная политика в Харьковской области: г. Чугуев, Чугуевский район, Дергачевский район (К. Мацузато (ред.), *Регіони України: хроніка та керівники. Том 2: "Харківська область"* [「現代ウクライナ政治の総合的研究」報告輯 1], 69-92, SRC, サッポロ, 2002)
 - Современная патримония и формирование официальных партий в Украине: Одесская, Закарпатская, Донецкая, Днепропетровская области (К. Мацузато (ред.), *Пространственные факторы в формировании партийных систем: Диалог американистов и постсоветологов* [「脱共産主義諸国のリージョン・サブリージョン政治」研究報告輯 7], 61-100, SRC, サッポロ, 2002)
 - ポロニズムと闘うコミッサールから農村啓蒙者へ：帝政下右岸ウクライナにおける調停吏制度『スラヴ研究』49:81-110 (2002.4)
 - (書評論文) Ядро или периферия империи? Генерал-губернаторство и малороссийская идентичность. Рецензия книги: Валентина Шандра. *Малоросійське генерал-губернаторство 1802-1856. Функції, структура, архів.* – Київ, 2001, *Український гуманітарний огляд*, 7:69-82 (2002)
 - The Issue of Zemstvos in Right Bank Ukraine 1864-1906: Russian Anti-Polonism Under the Challenges of Modernization, *Jahrbücher für Geschichte Osteuropas*, 51 (26):218-235 (2003)
 - Из комиссаров антиполонизма в просветители деревни: мировые посредники на правомбережной Украине (1861-1917 гг.), *Український гуманітарний огляд*, 9:62-121 (2003)
 - Рутистика поверх границ. Славянские исследования Японии и социальные науки России: совместные поиски выхода из изоляции, *Ab Imperio*, 1: 421-433 (2003)
 - “Введение: Критические моменты авторитарной трансформации. Диверсификация национальных республик Среднего Поволжья,” “Полигон постмодернизма: элита в посткоммунистической Чувашии” (*Регионы России. Хроника и руководители. Том 8. Республика Марий Эл, Чувашская Республика, Республика Башкортостан*, 7-22; 160-167, SRC, Sapporo, 2003)
 - A Populist Island in an Ocean of Clan Politics: The Lukashenka Regime as an Exception among CIS Countries, *Europe-Asia Studies*, 56(2):213-239 (2004)
 - Authoritarian Transformations of the Mid-Volga National Republics: An Attempt at Macro-Regionology, *Journal of Communist Studies and Transition Politics*, 20(2):98-123 (2004.6)
 - Regional Politics and Municipal Building: Reshuffling of Local Chief Administrators in Russia, 1990-1996 (A.B. Evans, Jr. and V. Gel'man, eds., *The Politics of Local Government in Russia*, 169-202, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2004)
 - Генерал-губернаторства в Российской империи: от этнического к пространственному подходу (И. Герасимов и др. (ред.), *Новая имперская история постсоветского пространства*, 427-458, Казань, 2004)
 - Из комиссаров антиполонизма в просветителей деревни: мировые посредники на Правобережной Украине (1861-1917 гг.), 175-221 (M. Kimitaka, ed., *21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 8, Социальная трансформация и межэтнические отношения на Правобережной Украине 19 - начало 20 вв.*, SRC, Sapporo, 2005)
 - Semi-presidentialism in Ukraine: Institutional Centrist in Rampant Clan Politics, *Demokratizatsiya*, 13(1):45-58 (2005)
 - 地域研究史学とロシア帝国への空間的アプローチ :19世紀の大オレンブルクにおける行政区画改革『ロシア史研究』64:38-49 (2005)
- (2) 共著
- (M. Ibragimov と) Alien but Loyal: Reasons for the “Unstable Stability” of Dagestan, an Outpost of Slavic Eurasia (*21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 7, Emerging Meso-Areas in the Former Socialist Countries: Histories Revived or Improvised?*, 221-244, SRC, Sapporo, 2005)(若干短縮した露語版は次に公刊:Чужой, но лояльный: причины «нестабильной стабильности» в Дагестане, *Полис*, 3:102-115 (2005))
 - (M. Ibragimov と) Islamic Politics at the Subregional Level of Dagestan: Tariqa Brotherhoods, Ethnicities, Localism and the Spiritual Board, *Europe-Asia Studies*, 57(5):753-779 (2005)(若干短縮したポーランド語版は次に公刊:Islam w Dagestanie: Bractwa religijne, etniczność, lokalizm i zarząd duchowy, *Arcana*, 66:77-91 (2005))
- 3 その他の業績
- (2) 書評
- James W. Heinzen, *Inventing a Soviet Countryside: State Power and the Transformation of Rural Russia 1917-1929* (University of Pittsburgh Press, 2004), *The Russian Review*, 64(1):148-149 (2005)

(4) その他

- ・ ダゲスタンのイスラム (前編) 『スラブ研究センターニュース』 95 (2003.10)
- ・ ダゲスタンのイスラム (後編) 『スラブ研究センターニュース』 97 (2004.5)
- ・ プリドニエストル・モルドワ共和国の秋 『スラブ研究センターニュース』 96 (2004.1)
- ・ 学術雑誌を国際化する方法 『スラブ研究センターニュース』 100 (2005.2)
- ・ Russian Imperiology and Area Studies (Impressions on the ICCEES Berlin Congress), *Ab Imperio*, 3:443-445 (2005)

4 学会報告

(2) 共通論題

- ・ Authoritarian Transformations of the Mid-Volga National Republics: An Attempt at Macro-Regionology, 7th Annual World Convention of the Association for the Study of Nationalities, Columbia University, New York (2002.4.11-13)
- ・ Славянские исследования Японии и социальные науки России: совместные поиски выхода из изоляции, The Conference “ ‘New Westernizers’ and Modernization of Russian Humanities, Social Sciences, and the Sphere of Higher Education in Respective Fields,” Kazan University (2002.6.28-30)
- ・ Генерал-губернаторства в Российской империи: от этнического к пространственному подходу, ロシア史研究会大会, 西南学院大学 (2002.10.27)
- ・ セッション1: 単一主権主義の最後の牙城?: リトアニアにおける地方制度改革と地方政党政治 (1990~2001年), 2001年度スラブ研究センター冬期シンポジウム「ソ連崩壊後の10年」, 札幌 (2002.1.30-2.2)
- ・ セッション4: ロシア帝国の近代化とナショナリズム, 2002年度スラブ研究センター夏期国際シンポジウム「スラブ・ユーラシアにおける国民史の構築と脱構築」, 札幌 (2002.7.10-13) におけるコメントータ
- ・ セッション1: 日露戦争の起源, スラブ研究センター2002年度冬期シンポジウム「20世紀初頭のロシア・東アジア・日本: 日露戦争の再検討」, 札幌 (2003.1.29-2.1) におけるコメントータ
- ・ セッション7: ポピュリズムの帝国におけるドイツ人のエリート主義: 比較の視点からのオストゼイ問題, スラブ研究センター2003年度冬期シンポジウム「旧社会主義諸国に出現しつつある中域圏: 歴史は甦りつつあるのか、それとも創作されているのか」, 札幌 (2004.1.28-31)
- ・ The Concept of Meso-Areas and the Strategy of Area Studies, International Conference “Политическая наука и государственная власть в Российской Федерации и новых независимых государствах,” Ekaterinburg (2004.2.6-8)
- ・ Islamic Politics at the Subregional Level of Dagestan: Tariqa Brotherhoods, Ethnicities, Localism and the Spiritual Board, Association for the Study of Nationalities, Ninth Annual World Convention, Columbia University (2004.4.15-17)
- ・ Semi-presidentialism in Ukraine: Institutionalism Centrism in Rampant Clan Politics, The First International Conference on Ukraine in Seoul, Korea University (2004.5.15)
- ・ Semipresidentialism in Lithuania: An Eternally Unaccomplished Parliamentary Regime?, International Conference “The Problem of the Russian Empire in the History of Russia, Poland, Lithuania, and Ukraine (Eighteenth to Twenty-First Century),” Warsaw (2004.9.9-10)
- ・ Semipresidentialism in Post-Communist Context: A Comparison between Ukraine and Lithuania, International Conference “Государственная самостоятельность Украины и Белоруссии и основные тенденции освещения прошлого восточного славянства мировой наукой,” Moscow (2004.9.13-15)
- ・ Historical Science and Area Studies: A Spatial Approach to Empires, ロシア史研究会2004年度大会, 札幌 (2004.10.23-24)
- ・ Ислам как стабилизирующий фактор общества: опыт Дагестана, Татарстана и Башкортостана, Second International Symposium on “Islamic Civilization in Volga-Ural Region,” Kazan (2005.6.24-26)
- ・ Managing the Space: The Territorial Reforms in Great Orenburg in the Mid-Nineteenth Century, ICCEES 世界大会, Berlin (2005.7.25-31)
- ・ Differing Dynamics of Semipresidentialism across Euro/Eurasian Borders: Ukraine, Lithuania, Poland, Moldova and Armenia, AAASS 年次大会, Salt Lake City (2005.11.6)
- ・ セッション6: 失われた歴史と領域認識, スラブ研究センター2005年度冬期国際シンポジウム「中・東欧の地域: 過去と現在」, 札幌 (2005.12.14-16) におけるコメントータ

村上 隆

1 著作

(1) 単著

- ・『北樺太石油コンセッション 1925-1944』430 (北海道大学図書刊行会, 2004)

(3) 編著

- ・『サハリン大陸棚石油・ガス開発と環境保全』430 (北海道大学図書刊行会, 2003)
- ・『サハリン北東部大陸棚の石油・ガス開発と環境VII』[スラブ研究センター研究報告シリーズ90]73 (札幌, 2003)

2 学術論文

(1) 単著

- ・ロシア極東地域のエネルギー開発計画とその問題点 (『ロシア極東地域情勢の研究』80-95, 日本国際問題研究所, 2002)
- ・サハリン大陸棚の石油・天然ガス開発 (『サハリン大陸棚石油・ガス開発と環境保全』3-40, 北海道大学図書刊行会, 2003)
- ・アラスカ、英国における石油流出に関する危機管理体制 (『サハリン大陸棚石油・ガス開発と環境保全』63-77, 北海道大学図書刊行会, 2003)

3 その他の業績

(4) その他

- ・ロシア支援委員会見直し『信濃毎日新聞』潮流 (2002.3.28)
- ・上昇気流のロシア経済『信濃毎日新聞』潮流 (2002.9.17)
- ・座談会「北方圏諸国との学術交流を通じて展望する」『季刊北方圏』122 (Winter, 2003)

4 学会報告

(1) 講演

- ・ロシア極東の潜在力と日ロ経済関係の展望, 富山ウラジオストク会, 富山 (2002.6.12)
- ・サハリン石油・ガス開発と環境問題, サハリン協会, 東京 (2002.10.10)

(4) シンポジウムのオーガナイザー

- ・日本学術振興会科学研究費「オホーツク海の流出油防除対策の総合的研究」(代表者:村上隆)による公開講座の組織化と司会, 紋別市 (2002.2.26)

望月 哲男

1 著作

(1) 単著

- ・『ドストエフスキー・カフェ:現代ロシアの文学事情』[ユーラシア・ブックレット No. 81] 63 (東洋書店, 2005)

(3) 編著

- ・『現代文芸研究のフロンティア (IV)』[スラブ研究センター研究報告シリーズ93]100 (札幌, 2003)
- ・『現代文芸研究のフロンティア (V)』[スラブ研究センター研究報告シリーズ94]61 (札幌, 2004)
- ・『現代文芸研究のフロンティア (VI)』[21世紀COEプログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集4]62 (スラブ研究センター, 札幌, 2004)
- ・『現代文芸研究のフロンティア (VII)』[21世紀COEプログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集9]196 (スラブ研究センター, 札幌, 2005)
- ・21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 6-2, *Siberia and the Russian Far East in the 21st Century: Partners in the "Community of Asia": Chekhov and Sakhalin*, xii+79 (SRC, Sapporo, 2005)
- ・(越野剛と)『19世紀ロシア文学という現在』[21世紀COEプログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集10]130 (スラブ研究センター, 札幌, 2005)

2 学術論文

(1) 単著

- ・«Вечный муж» как театр катарсиса, *Русская литература*, 1:135-140 (2002)
- ・Новые римэйки романа Достоевского: о современном «Идиоте» (Фигури на автора: Юбилеен сборник в чест на 60-годишнината на професор Боян Биолчев, 371-376, София, 2002)
- ・『白痴』の現代的リメイクをめぐって『スラブ研究』49:111-146 (2002.4)
- ・「現代風ドストエフスキー:伝説と加工」「ロシアの北/北のロシア」(望月哲男編『現代文

2. 研究活動

- 芸研究のフロンティア (IV)』[スラブ研究センター研究報告シリーズ 93] 40-64;89-100, 札幌, 2003)
- ・ 社会主義リアリズム論の現在 (『岩波講座 文学 10 政治への挑戦』 93-111, 岩波書店, 2003)
 - ・ 19 世紀ロシア文学におけるイエズス会のイメージ: 『カラマーゾフの兄弟』 読解へのステップ (『19 世紀ロシア文学という現在』 [21 世紀 COE プログラム 「スラブ・ユーラシア学の構築」 研究報告集 10] 33-52, スラブ研究センター, 札幌, 2005)
- (2) 共著
- ・ (福間加容と) ソローキンと絵画: 小説『ロマン』と 19 世紀ロシア美術 (『現代文芸研究のフロンティア (VII)』 [21 世紀 COE プログラム 「スラブ・ユーラシア学の構築」 研究報告集 9] 41-68, スラブ研究センター, 札幌, 2005)
- 3 その他の業績
- (2) 書評
- ・ 沼野充義著 『徹夜の塊: 亡命文学論』 『週刊読書人』 5 (2002.4.19)
 - ・ 亀山郁夫著 『磔のロシア: スターリンと芸術家たち』 『日本経済新聞』 (朝刊) 22(2002.7.21)
 - ・ Тоефуса Киносита (составитель), Карен Степанян (редактор). *XXI век глазами Достоевского: перспективы человечества*. Москва, 2002, 560, *Japanese Slavic and East European Studies*, 23:138-145 (2003)
 - ・ Тоефуса Киносита (составитель), Карен Степанян (редактор). *XXI век глазами Достоевского: перспективы человечества*. Москва, 2002, 560 『ロシア語ロシア文学研究』 35:139-141 (2003)
 - ・ ブライアン・ボイド (諫早勇一訳) 『ナボコフ伝 ロシア時代 上下』 (みすず書房, 2003) 『週間読書人』 2 月 13 日 :5 (2004)
- (3) 翻訳
- ・ アンドレイ・リョーフキン 『ロシア民話としてのドストエフスキイ』 (望月哲男編 『現代文芸研究のフロンティア (IV)』 [スラブ研究センター研究報告シリーズ 93] 65-88, 札幌, 2003)
 - ・ ワシーリイ・アクショーフ 「黄身 (『タマゴの黄身』 第 8 章)」 『現代ロシア文学作品集』 [北大文学研究科西洋言語文学研究室] 13:111-131 (2004)
 - ・ (沼野充義と) エドワード・ラジンスキー 『真説ラスプーチン』 (上・下) 477; 441+15 (NHK 出版, 2004)
- (4) その他
- ・ 10 年目のロシア・ブッカー賞 『ユリイカ』 4:270-271 (2002)
 - ・ ロシア文学の現況と翻訳・研究 2001 『文芸年鑑平成 14 年版』 84-87, 新潮社, 2002)
 - ・ ソローキンのところ 『ユリイカ』 10:220-221 (2002)
 - ・ (学会紹介) Dostoevsky and Germany: From the XI Symposium of the International Dostoevsky Society in Baden-Baden (4-8 October, 2001) (*Neue Beitrage zur Germanistik, Band1/2002*, 253-255, Japanese Association for Germanistics, 2002)
 - ・ 世界文化・文学アラカルト (ロシア) 『北海道新聞』 夕刊 (2002.2.19; 5.21; 8.6; 10.29)
 - ・ 世界文化・文学アラカルト (ロシア) 『北海道新聞』 夕刊 (2003.4.15)
 - ・ いまどきのペテルブルグ小説 『ユリイカ』 8:242-243 (2003)
 - ・ 幻想都市の文学 『しゃりばり』 259:68-73 (2003.9)
 - ・ 男性作家にみるとしても自己意識的なポストモダニズム 『ユーラシア研究』 29: 33-38 (2003.11)
 - ・ 革命前ロシアの精神風景 『Philharmony』 [NHK 交響楽団] 12:19-28 (2004)
 - ・ 若き人工都市サンクト・ペテルブルグはいかにして学術・文化情報の発信地となりえたか 『ロシア語ロシア文学研究』 36:153-154 (2004)
 - ・ (事典項目) 「アイトマートフ」「ヴォイノーヴィチ」「自殺」「社会主義リアリズム」「ソローキン」「ペレーヴィン」「マカーニン」の項目 (『新版 ロシアを知る事典』 平凡社, 2004)
- 4 学会報告
- (2) 共通論題
- ・ "Shame and Idea: Dostoevsky's *A Raw Youth*," The 35th National Convention of the AAASS, Toronto (2003.11.20-23)
 - ・ (沼野充義、坂内徳明、亀山郁夫と) ヴィヴァ! 聖ペテルブルグの魅力を語る, 日本ロシア文学会・大阪市共催シンポジウム, 大阪国際交流センター (2003.10.31)
 - ・ セッション 5: 文学・歴史の想像における空間と領域性, スラブ研究センター 2005 年度冬期国際シンポジウム 「中・東欧の地域: 過去と現在」, 札幌 (2005.12.14-16) におけるコメントータ

2. 研究活動

(5) 自由論題

- ・ The Perception of Dostoevsky by Contemporary Russian Writers: Reminiscences, Stylizations, and Remakes, AAASS 年次大会, Pittsburgh (2002.11.21-24)

山下 祥子

3 その他の業績

(4) その他

- ・ Хорошая...? 『スラブ研究センターニュース』 102 (2005.8)

山村 理人

2 学術論文

(1) 単著

- ・ A New Phase of Post-Socialist Structural Changes in Russian Agriculture (IEDA Osamu, ed., *Transformation and Diversification of Rural Societies in Eastern Europe and Russia*, 109-136, SRC, Sapporo, 2002)
- ・ ロシアにおける農業構造変動の新たな動向：ロシア中央黒土地帯と西シベリアの事例に基づく考察『国際農林業協力』 24(9・10):14-34 (2002)
- ・ ウズベキスタンの農業構造：経済統制下の非集団化 (『中央アジア乾燥地における生態環境と社会生態に関する研究』 33-110, 日本カザフ研究会, 2003.12)

3 その他の業績

(4) その他

- ・ 市場経済化と土地所有の比較法社会学的検討：旧ソ連諸国の事例 (科学研究費特定領域研究「アジア法整備支援、包括的枠組：司法改革」班 Working Paper, 1-12, 2003.3)
- ・ 市場経済化と土地所有問題：ロシアおよび旧ソ連諸国の事例『農村経済研ニュース』 1-7 (2003.11.21)
- ・ ロシアの穀物輸出国への転換：その背景と展望『商品市況研究』2005 年夏季特集号 :3 (2005.8)

4 学会報告

(2) 共通論題

- ・ セッション 2:EU の東方拡大, スラブ研究センター 2003 年度夏期国際シンポジウム「スラブ・ユーラシアの世界経済・国際社会との統合」, 札幌 (2003.7.16-19) におけるコメンテータ

(3) シンポジウム・パネル・ディスカッション

- ・ 富山大学・極東地域研究センター・国際シンポジウム「ロシア地域労働市場の視角」, 富山 (2003.3.18) におけるコメンテータ
- ・ 国際ワークショップ「日露コンファレンス：20 世紀ロシア農民史をめぐって」富士 (2003.11.14-16) におけるコメンテータおよび司会
- ・ Vertical Integration Processes in Agri-Food Complex of Transition Countries, Jilin Agricultural University Inaugural Meeting for Northeast Asian Research Center for Agricultural and Rural Development, Jilin, China (2004.8.17-8.19)
- ・ Socio-Economic Factors Affecting Agro-Ecological Process in Kazakhstan, International Symposium "Valuation and Monitoring of Desertification: Synthetic Activities for the Contribution to UNCCD," National Institute for Environmental Studies, つくば, Japan (2004.2.2)
- ・ 中央アジア諸国における土地改革：農地「私有化」をめぐって, 国際シンポジウム「モンゴル遊牧社会と土地所有：体制移行国における土地私有化の比較研究」, 名古屋大学法政国際教育協力研究センター, 名古屋 (2005.9.17-18)
- ・ コンファレンス「20 世紀ロシア農民史研究」, 東京大学経済学研究科 (2005.11.13-14) における司会とコメント

(5) 自由論題

- ・ 市場経済化と土地所有の比較法社会学的検討：旧ソ連諸国の事例, アジア法整備支援、包括的枠組：司法改革班研究会, 東京 (2003.7.5)
- ・ 市場経済化と土地所有問題：ロシアおよび旧ソ連諸国の事例, 農村経済研究会, 東京 (2003.7.6)

② 競争的資金の獲得状況

1999年度以降、センターの獲得した競争的資金は、科学研究費と21世紀COEプログラム、学内の重点配分経費などである。科学研究費は、2000～2002年には総額4500万円程度であったが、21世紀COEプログラム採択の2003年以降、4000万円に達していない。1999～2005年度の科研費について1件あたりの助成額は502万円であり、文系としては1件あたりの助成額が大きいことが、センターの特徴である。2005年の科研費について教員1人あたりの助成額を計算すると、260万円である。これに21世紀COEプログラムと重点配分経費を加えると、2005年の教員1人あたりの助成額は895万円となる。

a. 科学研究費

(1) 採択状況集計表（平成11年度～平成17年度）

（単位：千円）

研究種目	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
(A)	4	22,800	5	29,000	3	23,700	4	27,400	3	23,200	2	13,300	3	24,400	24	163,800
(B)	5	16,200	5	17,200	5	21,500	3	15,500	3	13,300	4	15,700	3	11,600	28	111,000
(C)							1	1,800			1	1,300	1	1,600	3	4,700
若手研究(B)													1	1,400	1	1,400
合計	9	39,000	10	46,200	8	45,200	8	44,700	6	36,500	7	30,300	8	39,000	56	280,900

(2) 採択項目内訳（平成11年度～平成17年度）

基盤研究（A）

（単位：千円）

研究代表者		研究課題	交付決定額							合計
職名	氏名		11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
教授	村上 隆	サハリン大陸棚石油・天然ガス開発にともなう「開発と環境」に関する学際的研究	4,900	4,400						9,300
教授	〃	サハリン大陸棚石油・天然ガス開発にともなう「開発と環境」に関する学際的研究	7,900	6,000						13,900
教授	〃	中央アジア・コーカサス諸国における経済発展と安定化問題				2,300				2,300
教授	林 忠行	東欧・中央ユーラシアの近代とネイション		10,200	7,900	7,800	8,100			34,000
教授	〃	旧ソ連・東欧地域における体制転換の総合的比較研究							8,300	8,300
教授	田畑伸一郎	ロシアの地域間の資金循環	5,300	3,800						9,100
教授	〃	ロシアの世界経済との統合に関する総合的研究			10,900	10,900	9,300	7,100		38,200

2. 研究活動

教授	〃	ロシア資本主義と資金循環							10,200	10,200
教授	家田 修	旧ソ連東欧地域における農村経済構造の変容	4,700	4,600	4,900					14,200
教授	〃	東欧の地域社会形成と拡大 EU の相互的影響に関する研究				6,400	5,800	6,200		18,400
教授	望月哲男	スラブ・ユーラシアにおける東西文化の対話と対抗のパラダイム							5,900	5,900
合 計		11 件	22,800	29,000	23,700	27,400	23,200	13,300	24,400	163,800

基盤研究 (B)

(単位：千円)

研究代表者		研究課題	交付決定額							合計
職名	氏名		11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
教授	望月哲男	90年代ロシアにおけるポストモダニズム文芸の総合的研究	2,800	2,500						5,300
教授	〃	転換期ロシアの文芸における時空間イメージの総合的研究				6,700	5,200	5,500		17,400
教授	田畑伸一郎	ロシアの地域間資金循環の分析	3,300	3,100						6,400
教授	原 暉之	近現代ロシアにおける国家・教会・社会：ロシア正教会と宣教団	4,100	3,600	3,600					11,300
教授	〃	日露戦争期の東北アジア国際関係：未公刊文書史料を中心とする研究基盤の形成					2,900	2,700		5,600
教授	井上紘一	ピウスツキによる極東先住民研究の全体像を求めて		4,700	4,100	3,400				12,200
助教授	松里公孝	ロシア連邦ヴォルガ中流域 6 民族共和国エリートの比較研究	1,800							1,800
教授	〃	脱共産主義諸国におけるリージョンおよびサブリージョン政治	4,200	3,300	3,700					11,200
教授	〃	現代ウクライナ政治の総合的研究			2,200					2,200
教授	〃	旧社会主義圏に生まれた非承認国家：多層的分析と相互比較							3,900	3,900
教授	村上 隆	オホーツク海の流出油防除対策の総合的研究			7,900	5,400				13,300
助教授	岩下明裕	ポスト冷戦主義のロシア・中国関係とそのアジア諸地域への影響					5,200	4,700	5,200	15,100
教授	山村理人	旧ソ連諸国における農業インテグレーションの展開とその多面的影響						2,800	2,500	5,300
合 計		13 件	16,200	17,200	21,500	15,500	13,300	15,700	11,600	111,000

2. 研究活動

基盤研究 (C)

(単位：千円)

研究代表者		研究課題	交付決定額				
職名	氏名		14年度	15年度	16年度	17年度	合計
助教授	岩下明裕	ポスト冷戦時代の中露関係と東北アジアー 多様化する国境地域協力	1,800				1,800
助教授	宇山智彦	中央ユーラシアの近代化における知識人の 役割の比較研究			1,300	1,600	2,900
合計		2件	1,800	0	1,300	1,600	4,700

若手研究 (B)

(単位：千円)

研究代表者		研究課題	交付決定額
職名	氏名		17年度
講師	前田弘毅	16-18世紀コーカサスにおけるイランの強制移住政策に関する研究	1,400
合計		1件	1,400

b. 21世紀 COE プログラム (研究拠点形成費助成金)

(単位：千円)

拠点リーダー		拠点プログラム名	交付決定額			
職名	氏名		15年度	16年度	17年度	合計
教授	家田 修	スラブ・ユーラシア学の構築	80,000	90,500	91,300	261,800

c. 重点配分経費「戦略的プロジェクト研究」

(単位：千円)

研究代表者		研究課題	交付決定額
職名	氏名		17年度
教授	原 暉之	北海道とサハリン州：相互理解に資する歴史記述を求めて	4,000
合計		1件	4,000

③ 専任研究員セミナー

研究部の専任研究員は、各年度に1回、最新の研究成果を専任研究員セミナーで発表することになっている。発表論文は1週間前までに配布され、すべての研究員がそれぞれの観点からコメントする。さらに、外部評価という点を考慮して、センター外から専門家が招かれ、専門的な評価・検討もなされる。また、長期的な研究計画と提出された研究論文との関係についても批評がなされる。このように、専任研究員セミナーは、学際的な研究を目指すセンターにとって独特の自己点検の場となっている。

2002年度

月日	専任研究員名	論文名	コメンテータ名
5月14日	松里 公孝	Critical Moments in Authoritarian Transformation: Diversification of the Mid-Volga National Republics	川島 真 (北大・法学研究科)

2. 研究活動

9月26日	井上 紘一	A Century of Uilta (Orok) Reindeer Husbandry on the Island of Sakhalin	佐々木史郎 (国立民族学博物館)
11月7日	村上 隆	北樺太石油コンセッション：労働力問題	横手 慎二 (慶応義塾大学)
12月9日	岩下 明裕	中露国境 4000 キロ：交渉現場の 10 年	毛里 和子 (早稲田大学)
12月11日	田畑伸一郎	Flow of Oil and Gas Exports Revenues and Their Taxation in Russia	栖原 学 (日本大学)
2月26日	林 忠行	スロバキアの国内政治と EU 加盟問題	遠藤 乾 (北大・法学研究科)
2月27日	井上 紘一	Russian Policies for Governing Indigenous Peoples: With Special Reference to B. Pilsudski's Attempts in 1902-1905	百瀬 響 (北海道教育大学)

2003 年度

月日	専任研究員名	論文名	コメンテータ名
4月3日	原 暉之	日露戦争後のロシア極東：地域政策と国際環境	西山 克典 (静岡県立大学)
4月21日	山村 理人	独立ウズベキスタンの農業構造：経済統制下の非集団化	長南 史男 (北大・農学研究科)
4月23日	家田 修	ハンガリーにおける国民形成と地位法の制定：スラブ・ユーラシア中域圏研究序説への試論的考察	田口 晃 (北大・法学研究科)
5月8日	岩下 明裕	「9・11 事件以後の中露関係」、「中央アジアをめぐる中露関係」	中村 研一 (北大・法学研究科)
5月30日	松里 公孝	A Populist in an Ocean of Clan Politics: The Lukashenko Regime as an Exception among CIS Countries	服部 倫卓 (ロシア東欧経済研究所)
11月13日	村上 隆	「北樺太石油会社の事業展開」、「トラスト・サハリンネフチによる石油開発」	上垣 彰 (西南学院大学)
12月17日	宇山 智彦	中央アジア諸国の政治制度と政治体制：大統領制と権威主義	田口 晃 (北大・法学研究科)
12月22日	田畑伸一郎	ロシア：石油・ガスに依存する粗野な資本主義	西村 可明 (一橋大学)
12月22日	原 暉之	俘虜は博愛の心を以て之を取扱ふべし：樺太の戦場から 100 年前の戦争を考える	横手 慎二 (慶応大学)
1月20日	望月 哲男	Shame and Idea: Dostoevsky's <i>A Raw Youth</i>	諫早 勇一 (同志社大学)
2月12日	家田 修	Regional Identities and Meso-Mega Area Dynamics in Slavic Eurasia: Focused on Eastern Europe	山下 範久 (北大・文学研究科)
2月24日	林 忠行	チェコ共和国における欧州懐疑主義：市民民主党と EU 加盟問題	仙石 学 (西南学院大学)

2. 研究活動

2月26日	荒井 信雄	1990年代における日口水産貿易：そのプラスとマイナス	鈴木 旭 (北大名誉教授)
3月17日	山村 理人	ロシアの農業・食料複合体におけるインテグレーションの展開	柴崎 嘉之 (道都大学)

2004年度

月日	専任研究員名	論文名	コメンテータ名
5月6日	岩下 明裕	The Search for a New Exit from Japanese–Russian Territorial Deadlock: Lessons from Sino–Russian Border Negotiations	田中 孝彦 (一橋大学)
5月7日	松里 公孝	Islamic Politics at the Subregional Level of Dagestan: Tariqa Brotherhoods, Ethnicities, Localism and the Spiritual Board (Magomed–Rasul Ibragimov との共著)	北川 誠一 (東北大学)、 森本 一夫 (北大・文学研究科)
11月8日	家田 修	Ideological Background of the Amendment Status Law Controversy in Hungary	平田 武 (東北大学)
2月17日	望月 哲男	ロシア文学におけるイエズス会のイメージ：カラマーゾフ的決疑論とその背景	杉浦 秀一 (北大・言語文化部)
2月23日	前田 弘毅	シャー・アッバース期 gholaman-e khasse-ye sharife 集団のメンバーシップと結合原理	太田 敬子 (北大・文学研究科)
3月7日	田畑伸一郎	Pension Reforms in Russia	西村 可明 (一橋大学)

2005年度

月日	専任研究員名	論文名	コメンテータ名
4月4日	林 忠行	東中欧諸国と米国の単独行動主義：イラク戦争への対応を事例に	中村 研一 (北大・公共政策学連携研究部)
5月6日	宇山 智彦	「個別主義の帝国」ロシアの中央アジア政策：宗教政策と兵役問題を中心に	西山 克典 (静岡県立大学)
6月10日	原 暉之	アムール州イヴァノフカ村の「過激派大討伐」(一九一九年)	井竿 富雄 (山口県立大学)
7月29日	岩下 明裕	四島返還の選択肢はソ連にあったのか？：1956年共同宣言交渉についての一考察	斉藤 元秀 (杏林大学)
12月6日	松里 公孝	Differing Dynamics of Semipresidentialism across Euro/Eurasian Borders: Ukraine, Lithuania, Poland, Moldova and Armenia	田口 晃 (北海学園大学)
1月16日	田畑伸一郎	ロシア経済構造の変容(1991～2005年)	上垣 彰 (西南学院大学)
1月18日	宇山 智彦	クルグズスタン(キルギス)の革命：社会ネットワークの活力と政治構造の不透明性	岡 奈津子 (アジア経済研究所)
1月31日	前田 弘毅	二重の周縁：サファヴィー朝権力とグルジア	羽田 正 (東京大学)

2. 研究活動

3月14日	望月 哲男	19世紀ロシア文学におけるイエズス会のイメージ：『カラマーゾフの兄弟』読解へのステップ	松本 賢一 (同志社大学)、 安藤 厚 (北大・文学研究科)
3月16日	林 忠行	T.G. マサリクの「小さな諸国民の地帯」をめぐって：第一次世界大戦期の言説から	百瀬 宏 (津田塾大学名誉教授)